

越生・鳩山新校準備委員会（第2回） 議事録

- 1 日 時 令和5年11月20日（月） 午前10時開会
午前11時40分終了
- 2 会 場 県立越生高等学校白梅館
- 3 出席委員 依田委員長、吉澤副委員長、堀副委員長、岩澤委員、伊東委員、
長島委員、谷ヶ崎委員、佐々木委員、高橋委員、白石委員、武藤委員、
廣川委員
- 4 事務局 魅力ある高校づくり課 栗藤、中島、坂本、高辻、橋本
- 5 協 議 「越生・鳩山新校基本計画骨子（案）」について
依田委員長 それでは次第2、協議に入ります。前回の委員会で、両校において作成
いただいた新校基本計画検討案に対して御意見を伺ったところです。その詳細につ
いては、第1回新校準備委員会の議事録を参考資料4として付けております。新校
準備委員会で皆様から御意見をいただき、新校基本計画検討委員会で更に協議を
しまして、案をまとめてきたところでございます。新校の学科名や学級規模など
につきましても、基本計画検討委員会の中で協議したものが、資料1でございます。
資料1を御覧ください。それでは、「資料1 越生・鳩山新校基本計画骨子（案）」の
説明を事務局からお願いします。
事務局 （越生・鳩山新校基本計画骨子（案）のうち課程・学科等、学校規模につ
いて説明）
依田委員長 それでは、今の説明のところ、資料1の1ページの上段ですが、学科名
と学校規模について、皆様から御意見をいただきたいと思っております。それではまず、
学科名につきまして、前回も様々な御意見をいただいた中で、新校基本計画検討委
員会で検討し、こういう案を出してきたわけですけれども、いかがでしょうか。
岩澤委員 越生町役場の岩澤です。美術・デザイン科という原案が示されてお
りますが、それ以外に検討する中で案となったものはなかったのでしょうか。
事務局 検討過程では、様々な名称を事務局の方でも、また学校の方でもいろいろ考
えているようですが、今のところ、複数を挙げるというよりも、とりあえずこちら
の案を前回の基本計画検討委員会の方でも提案しておりますので、同じく、美術・
デザイン科という今回の案を出させていただいております。具体的なものが学校か
ら意見として出ているようであれば紹介いただいても良いと思っております。事務局の中
では、デザインの他にも、例えば、美術はアートですので、アートとデザインです
とか、他にも、ビジュアルという言葉を使うとか、それから、クリエイティブとい

うところが実施方策の基本方針にもありますので、美術とつなげて何か学科名にできないかなど、様々なアイデアはあるのですが、とりあえず、今回の案は「美術・デザイン科」とさせていただいております。

依田委員長 岩澤委員、いかがでしょうか。

岩澤委員 今言われた中の、「アート・デザイン科」なども私の頭の中に浮かんだのですが、今後の学校と教科がどういう形になっていくのか、アート・デザインというとなんとなく、表現するのは難しいですが、今までの美術、油絵とかそういった学びも引き続きやっていくということであれば、なんとなく「美術・デザイン科」の方が良いのかなと思ったり、その辺り、これからの授業をどういうふうに進めていくかによって、名前を選んでいくのが良いのかと感じたところです。

事務局 新しい学科での学びは、これまでの既存の専門美術科の学びに、アニメーションという一つのジャンルを加えていくことを考えているところです。ですので、現在の越生高校の専門美術科では、1年生で基本的なことを学んだ後、2年生になりますと主専攻と副専攻を決めて、3年生になったときには、四つの主専攻に分かれることになっています。それが、絵画、彫刻、ビジュアルデザイン、クラフトデザインの四つです。これらは、文科省が定めている学習指導要領にある科目です。その四つのいずれかをやって、卒業作品を作って卒業ということになります。私も考えているのは、その中にアニメーションの学びをうまく入れられないかということです。学びとしてはそういった奥行きと言いますか、間口の広さがある中で、どんな学科名にするのが妥当なのかということをお検討いただければと考えているところです。そういった中で、「美術・デザイン科」という案になりました。

依田委員長 よろしいでしょうか。他、いかがでしょうか。はい。では、長島委員、お願いします。

長島委員 越生町商工会の長島です。まず、定数をお聞きしたいのと、今、学科名の説明をいただきましたが、前回の委員会でも、特色として美術科にアニメーションを入れるんだというお話があって、なかなか画期的で良いのではないかと思っていたのですが、「美術・デザイン科」となると、アニメーションがすっかり消えてしまったように見えて、なんとなく物足りないように思えるのですが、その辺の検討は十分にしたのでしょうか。アニメを売りにして募集していくという、そういう方向に行くのではないかと思っていたのですが、アニメが消えてしまって大丈夫なのでしょうか。

事務局 2点いただいた御質問の中の一つ目の定数、学級数についてです。普通科を3学級、新しい学科を1クラスとしておりますが、令和2年度までは、現在の越生高校の募集人員が3学級プラス1学級ということでした。現在は、普通科は2学級募集に規模が小さくなっていますが、今回は鳩山高校との統合ということになりますので、そういった意味で、今の鳩山高校の学校規模などを考えますと、現在の越生高校の学級規模では少し小さいのではないだろうかということで、もちろん、この地域の中学生の数が減少していく状況であったり、また、中学校と違いまして学区があるわけではありませんので、少し広いところで募集していかなければならな

いというのは当然のことですが、3学級プラス1学級ということできたいと考えているところです。

長島委員 人数はどうなるのでしょうか。

事務局 1学級は40人と定められております。1学級40人というのは、高校の場合ですと、1クラスの定数ということで決まっておりますので、1学級40人で3クラスと、1学級40人で1クラスということになります。学科名についてですが、アニメーションという言葉が独り歩きするということではないかという意見がどちらの委員会でも出ておまして、また、アニメーションを売りに出すというのはもちろん必要だと考えておりますので、学びの中にそういったものが入っているというのは、この先、中学生に対するPR活動などでしっかり訴えていこうと思っておりますが、学科名に例えばアニメとかアニメーションという言葉が入ってくると、必ず全員が学ぶという印象を与えかねないと考えております。先ほども申し上げましたが、現在の越生高校の美術科は四つの主専攻に分かれて卒業します。その中の一つに加えるとなると、5分の1の重さになりますので、アニメーションという言葉を使うのはどうかなということで、一応ここでは使っていないということです。

依田委員長 よろしいでしょうか。本日初めて御出席の委員もいらっしゃいますので、前回の議事録に、アニメーションの学びについての考え方が分かる部分がありますでしょうか。基本計画検討委員会では、アニメーションという言葉を使うことで、逆に中学生に誤解を生じさせてしまうのではないかという観点があったかと思いましたが。

事務局 新校基本計画検討委員会もそうですし、準備委員会もそうなんですが、私たちが、アニメーション・美術に関する学科と大きく構えたときに、アニメーションに対する受け止めというのが人によって様々であるということで、それぞれの第1回目の委員会では、私たちが考えているアニメーションというのがどういうものであるかということをお話させていただいております。7月に行われた第1回の新校基本計画検討委員会の議事録にも、アニメーションの学びとは、というやりとりをかなり時間をかけて行っていることが分かるかと思えます。また、8月に行われた新校準備委員会でも、冒頭、アニメーションの学びについてこんなふうを考えておりますという説明をさせていただきました。ですので、広い意味での映像表現としての一つの形態としてのアニメーションと、あとは、商業アニメとでも言うのでしょうか、テレビアニメのイメージ、一番身近なのがテレビで放映されているものや動画配信等で放映されるアニメかと思えますが、この国には非常にたくさんありますので、そのイメージと、余りテレビアニメ一辺倒ではなくて、芸術の一分野として幅広くアニメーションを学んでいくということがあります。文部科学省の学習指導要領の範囲内だと考えていったときには、委員会ではストレートな質問もありましたが、アニメーターを育成することに主眼を置いた学科ではないということを考えております。もちろん、アニメのことを学んでいく中で、そういった方向に進む生徒も出てくるかもしれませんが、そういった学びも全くないわけではないのですが、中学生に対しては、この学科に入ると必ずアニメーションが学べるという、

100%全員が学ぶということになるかどうかということもありますので、その辺りをしっかりと認識するというをまず出発点にさせていただいたつもりです。ですので、両方の委員会の議事録で、今私が申し上げたようなことが記載されております。

依田委員長 前回、そのような議論がこちらの委員会で行われたと思います。議事録の3ページや4ページ辺りになるでしょうか。後ほど御覧いただければと思います。アニメーションについてはなかなか幅広い概念でして、中学生が勘違いをして志望してしまうリスクをどう軽減するかという観点があったかと思います。それでは、引き続き委員の皆様から学科名について御意見を賜りたいと思います。いかがでしょうか。高橋委員、お願いします。

高橋委員 個人的な意見になってしまうかもしれませんが、無理に新しい名前を付けずに、シンプルに美術科ということも案として挙げていただければと思います。現在の美術科においても、絵画や彫刻、CGなどいろいろなものがありますし、これに新しいものを組み込むと、何か印象がそちらに引っ張られていってしまうのではないかとこのところ、アニメーションを含め、美術の中にいろいろなものがあるので、無理に新しいものを入れなくても、美術の中にこれだけいろいろ選択できるものがありますよとPRすれば、現状の美術科という名前でも良いのかと思いました。

依田委員長 ありがとうございます。事務局から話をいただく前に、他の委員から御意見を頂戴できればと思います。はい。伊東委員、お願いします。

伊東委員 駿河台大学の伊東です。今、第2回検討委員会の議事録を見させていただきました。相当、この美術というものにこだわりを持っていらっしゃるということも見受けられました。例えば専門学校や大学をイメージしていただきたいのですが、美術大学といったときに、確かにデザインとかもあるのですが、やはり絵画や彫刻といったものがイメージされるのかと思います。逆に、専門学校では多いですが、デザイン学科といったときには、イラストやWEBデザインなど、なんとなくイメージの中には、美術という言葉とデザインという言葉、それぞれ別々に持っているニュアンスで捉えられることが多いのかと思います。それはうちの学生を見ていたり、仕事の方では新卒の社員を見ていてもそういうイメージを持っているのだろうという印象です。なので、美術科という学科名を良しとした場合には、きちんと、どういうことをするのかということを外に発信していく必要があります。学科名というのは、それだけを見て学生、生徒がここに行こうかなと思うものでもありますので、ある程度分かりやすくすることが良いのではないかと思います。こだわりの部分と新しい部分を含めてどういうことをしたいのか、そういうことも踏まえて学科名とするのが良いと思います。前回、アートということも言わせていただきましたが、私自身はそこにこだわる必要はないと思っておりまして、中学生が高校に行きたいといったときに、何を学べるのかということが分かりやすい印象を持つ方が良くと思います。どうしても美術と言うと、私は絵を描けない人間なので、絵画や彫刻など手を動かすものをイメージしてしまうので、二つ挙げた方が分かり

やすいのかなということで、前回、アイデアとして話をさせていただきました。あと、第2回検討委員会の議事録を読んでいて思ったのですが、基本的にデザインに関しては何でも、ものすごく範囲が広いんですね。何を学ぶかということの柱が決まっていかなないと学科名が付けられないところもあるのかと思います。専門学校も大学もそうですが、数あるものの中から何を学ぶのかによってコースなども決まってくるようになりますので、例えば大きな柱として学科名を付け、その下にコースはこうありますということであればそれをきちんと表に出していく、その前に何を教えるかということですね、今回ICT教育ということも含めて考えるのであれば、当然、新しい視点としてWEBデザインなどもあります。デザインというのは、社会に還元するという意味では自己の表現にもなりますし、社会に役立つ手段でもあります。ここでおっしゃっているアニメーションも含め全て、自分が表現したいことを表現する手段です。それを覚える、学ぶということがこの学校の根底にあると思いますので、そういった意味で、アニメーションと言ってもテレビアニメを作りたいとかそういうことではないと思いますので、動かす概念を知っていると、表現の幅が広がる、そういう意味合いかと思います。どうしても、アニメーションという言葉を最初に打ち出した以上、伝えたいという思いは分かりますが、無理にこだわる必要はなく、全て、どういうことをしたいのか、どういう生徒を育てたいのかに基づいて打ち出させていただくのが良いと思います。第2回の議事録を読んでも、そういう意見が出てこず、美術科という名前にこだわっていたり、デザインという分かりにくい名前にしなくても良いのではないかという意見ばかりでしたので、何を教えたいのか、新しいことをしたいのか、その辺りがどういうふうに出されていたのか、議事録を読む限りでは出てきていないですが、そういったことも含めて、御検討されるのが良いと思います。

依田委員長 はい。高橋委員と伊東委員の御意見をまとめてということになりますが、事務局からお願いしたいと思います。

事務局 説明が重複してしまうかもしれませんが、私たちとしては、二つの学校の統合ですので、これは後々の校名にも関わってくることになるかと思いますが、新規性を打ち出すという意味でも、美術科というのはまさにおっしゃるとおり、全てが含まれていて、現行の学びを拡張していくのだから学びについては包含されてくるだろうという意見は事務局内にもあったのですが、新規性を打ち出すということを考えると、今とは少しでも違う形にした方が良いのではないかということが、まずありました。美術をアートという言葉に置き換えるということもありますし、横文字に限りませんが、造形とかクリエイティブという意味での創造とか、そういった言葉などもどうだろうかという考え方も出てきています。いずれにしても、伊東委員から御指摘いただいてしまいましたが、学びそのものがどういうものになっていくのかというところがはっきりと、教育課程を組んでいくときに詳細がはっきり出てくることにはなるのですが、私たちとしては、現在の越生高校の美術科で行われている授業の中に、表現方法の一つの手法としてのアニメーションという表現方法を、生徒に学ばせることは確実に進めていきたいと考えております。それが、

主専攻を4専攻から5専攻にするのか、あるいは主専攻とは別にアニメーションの学びを1年生、2年生、3年生と積み上げていく形にしていくのか、その辺りは今検討しているところですが、いずれにしても、現在の美術科に新しいものが入ってくるというところを受けて、美術科ではなく、新規性を打ち出すことが必要と考えたところです。デザイン一点に絞るということではありませんので、幅広く御意見を頂戴できると有り難いと考えております。

依田委員長 両委員、いかがでしょうか。

伊東委員 ありがとうございます。学校規模とも紐づく話かと思いますが、前回のこの委員会でもお話がありましたが、人数規模といったときに、どうしてもアニメーション・美術に関する学科の方が比率が少ないわけですので、これからお話をしていく内容かと思いますが、例えば、普通科にもこのデザインといった要素をどこまで入れていくのか、そういうところも考えていかないと、目指す学校の形であったりどういう生徒を育てたいかということにつながっていかないとしますので、難しいところではありますが、普通科の規模の方が大きい以上、美術・デザインのような言葉が独り歩きしても仕方がないので、そのバランスも含めて考えていかなければならないだろうと思っております。検討される際にはその辺りも考慮していければ良いと思っております。

依田委員長 ありがとうございます。事務局からはよろしいでしょうか。先ほど、4専攻にするのか5専攻にするのかといった話がありましたが、いつぐらいにはっきりしてくるものなのでしょうか。

事務局 来年度に、3番目の委員会として新校開設委員会が立ち上がりますが、これは両校の校長先生、教頭先生を中心とした委員会です。その下に、それぞれの教員がぶら下がるような形で、分野ごとに細かいことを打合せしていきます。何より一番大きいのは教育課程を作っていくことで、令和8年度の開校に向けて、1年生では何を学ばせて2年生では何を学ばせて3年生では何を学ばせて、というのを全て組み立てていきます。ここのところでは完全にはっきりさせないといけないので、そこに向かって現在、検討を進めているところです。2校の統合ではあるのですが、どうしてもこの新しい美術科に関しては、やはり専門美術の教員の知見や経験が必要なので、現在、越生高校の美術科の教員にも、今の学びと次の学びというものをしっかり練ってもらっているところですが、今のところ2方向あって、どちらが良いということまで結論が出ていない段階でございます。

依田委員長 はい。分かりました。少し時間が長くなっておりますけれども、重要なところですので、学科名について引き続き御意見がある委員がいらっしゃいましたらお願いしたいと思います。

吉澤副委員長 越生高校校長の吉澤です。10月27日に行われた第2回新校基本計画検討委員会の後に、参加していた教頭から報告を受けまして、校内でも企画委員会、職員会議等を通じて、全教職員に情報共有しました。併せて、先生方からの意見も、本日の準備委員会に持ち寄ればということで、企画委員会、職員会議の中で、先生方に、学科名、学級数について意見があれば管理職に伝えてくださいと、1ヶ月

足らずですが、お願いしました。学級数については、余り多くの意見は出ませんでした。普通科3、美術科1ということで概ね納得感を得られた印象ですが、学科名については、先ほど事務局からもありましたが、美術科の中で今検討しています。本校の後援会長からもありましたが、美術に対するこだわり、ここ17年、18年と高文祭の方にも作品を出展しているといったところで、どのような生徒を育てたいのかといったことを、ずっと美術科の方で考えております。本校なりに取り組んできたこともありますので、それを継続または発展させていきたいという思いが美術の教員の中にはあります。ただ、併せて、新校になるということで、新たにアニメーションの学びも入ってくるので、学科名を変えるということについても、全く否定しているわけではなく、より良いものがあればということで、今検討しているところです。なかなかまだこれといったものにまとまっておりませんが、例えば、「総合美術」や「美術・工芸」などの案が出てきておりますので、御報告させていただきます。伊東委員からお話しいただいたとおり、どういう生徒を育てていきたいのか、そういうことが決まればおのずから中学生に分かりやすい名称に、というのは、私も同じ意見ですので、その辺も含めて検討いただければと思います。

依田委員長 越生高校の方から話がありましたが、「総合美術」や「美術・工芸」といった案も、学校の中ではあったということでした。基本計画検討委員会における案としては「美術・デザイン科」ですが、校内ではそういった案もあったということです。今の話も踏まえ、他の委員からも御意見いただければと思いますがいかがでしょうか。はい。武藤委員、お願いします。

武藤委員 いろいろ御説明いただきまして、御説明いただく前から「美術・デザイン科」は実に分かりやすく、理解しやすい名前が良いのではないかと感じておりました。御説明いただいて、尚更、この名前が良いのではないかと感じました。

依田委員長 ありがとうございます。事務局案に賛成という御意見をいただきました。他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。様々、御意見を賜りましてありがとうございます。これにつきましては、今の御意見を事務局の方で勘案していただいて、次回の基本計画検討委員会の方に還元していただいた上で、第3回目の準備委員会に最終案として提案していただければと思います。それでは、学校規模について、先ほど長島委員からのお話にもありましたが、普通科3クラス、美術・デザイン科、仮称ですが、1クラスという原案につきましては、御意見があればお願いいたします。はい。武藤委員、お願いします。

武藤委員 前回欠席しまして、今更なのですが、鳩山高校との統合であるのでしたら、私の個人的な考えでは、普通科、美術・デザイン科に、商業に関する、情報科のような学科を加えていただいて、普通科2、美術・デザイン科1、あともう一つというふうにしていただけると、鳩山高校の卒業生としては、本当はそれが一番有り難いです。今更ですが。

依田委員長 はい。今の御質問につきまして、事務局から説明をお願いします。

事務局 確かに、統合ですので、そういった考え方はよく分かりますし、私たちもそういう思いは常に抱きながら様々な案を検討させていただいているところです。

が、今回は、新校をどのような学校にするかという大きな柱の中に、普通科とアニメーション・美術に関する学科ということで、教育委員会の方で定めさせていただいております。現在、埼玉県内では普通科を志向する中学生が大変多く、専門学科の中には志願倍率が低迷している学科もあります。幸いにして鳩山高校の情報管理科は、生徒がよく集まっているところだと思いますが、大きなくくりで言いますと商業科になりますので、県全体としてなかなか商業科の人气が上がらないということもあり、今回のこの2校の統合の中では、その辺りを再編しまして、越生高校の美術科は生かすとして、普通科を主体とする統合と考えたところです。気持ちは常に鳩山高校、あるいは鳩山高校に関わりのある皆様の気持ちに沿った形で検討を進めていきたいと考えております。

依田委員長 なかなか武藤委員の御期待に沿えないというのが、今の事務局の説明にあったかと思いますが、いかがでしょうか。

武藤委員 2ヶ月ほど前に、10年ぶりにお会いした方がいて、お子さんは今どこの高校に行っているのか尋ねたら、鳩山高校の情報管理科に通っているという話が出まして。本当は第一希望の学校は違うところだったんだけれども、なかなか難しく、じゃあ次はどうしようか考えたときに、卒業後すぐに就職しやすいように、ここに行こうかと親子で決めたということを知りました。それがつい2ヶ月ほど前で、なるほど、そういうところでも、鳩山高校の情報管理科が生かされているんだなと実感したばかりだったものですから、言わせていただきました。

依田委員長 確かにこれからの学びを考えたときに、情報処理であるとかICTの活用能力というのは、大いに求められているものだと思います。そうしたことについては、県の教育委員会の方でも、全ての学校で、ICTの活用能力をどう育てていくかということは大きな課題になっていまして、武藤委員がおっしゃったように、卒業してすぐに社会に出て活躍できる能力を、どう子供たちに身に付けさせるかということを課題として捉えております。この後、教科指導の中でも事務局から説明があるかと思いますが、新校の普通科においても、そういった学び、取組を強化していく必要があると考えております。設置する学科については、大変申し訳ございませんが、教育委員会の方で既に決定している事項でもありますので、その点は本当に申し訳ないとは思っておりますが、今、武藤委員からおっしゃっていただいたことについては、新校の普通科の学びの中でしっかり取り組むように、新校基本計画検討委員会にもお伝えさせていただきますので、御理解いただければと思います。

堀副委員長 先ほど武藤委員からお話いただいた件に関してですが、鳩山高校の校長として、最初、鳩山高校の情報管理科がなくなるという話があったときに、非常に残念な思いがありました。情報管理科は非常に充実した教育活動を行っておりますし、活躍している卒業生も多いですので、是非存続していただけないかと当初は感じておりましたが、県の方で決まっているということで、決まってしまう以上、何か引き継げないかというふうには今も考えております。来年度以降の委員会等で、具体的にどういったものを学ぶかという教育課程を検討する中で、本校の商業科でやってきた良い部分をそちらに取り入れて、教育課程の中に組み入れていければと

考えている次第です。情報管理科の先生方も非常に残念がってはいましたが、そういったことで前を向いてということではないですが、鳩山高校で培ってきたものを次に生かしていければと。科名はなくなってはしまいますが、実を取るではないですが、内容面で引き継いでいければと先生方も私も考えております。武藤委員の御意見は本当に有り難くて、大変うれしいことなのですが、そういった形で引き継いでいきたいと考えております。

依田委員長 はい。ありがとうございます。それでは、学科名と学校規模につきまして、よろしいでしょうか。大分時間を取りましたので、この後は少しスピードを上げながら進めてまいりたいと思います。それでは、基本理念について、事務局から説明をお願いします。

事務局 （越生・鳩山新校基本計画骨子（案）のうち基本理念（目指す学校、育てたい生徒像）について説明）

依田委員長 基本理念について説明がありましたが、委員の皆様から御意見等がございましたらお願いします。参考資料1に、各学校から出された案と論点も併せて記載されておりますので、必要に応じて資料を見比べながら御意見をいただければと思います。よろしいでしょうか。また最後に全体を通して御意見をいただきたいと思っておりますので、先に進めさせていただきたいと思っております。事務局から引き続き、次の教育活動等の基本姿勢、教科指導について説明をお願いします。

事務局 （越生・鳩山新校基本計画骨子（案）のうち教育活動等の基本姿勢、教科指導について説明）

依田委員長 教科指導などにつきましては、前回も多くの御意見をいただいたところかと思っております。なるべく、皆様からの意見などを反映して、基本計画検討委員会でこのような案をまとめてきたところでございますが、こちらについて、御意見、御質問等がございましたら、お願いいたします。少し分かりづらい単語があると思うのですが、日本語支援員とか学習サポーターといった言葉が入っていますが、もう少し分かりやすい表現があれば皆さんも理解しやすいと思っております。事務局からいかがですか。

事務局 こちらは埼玉県教育委員会が取り組んでいる一つの事業と言いますか、生徒の学びをサポートするものでございます。日本語支援員というのは、日本語を母語としないような生徒、外国につながる生徒、県内にもたくさんの方の外国の方が暮らすようになってきていますので、そういった生徒たちに日本語の指導をしていくための要員です。学習サポーターというのは、こちらにもいろいろな形態がありますが、例えば大学生などをお願いして、教員とチームティーチングのような形で入るとか、あるいは放課後やいろいろな時間を利用してチューターのような、指導者のような役割を担って、生徒たちの学習のつまずきの面倒を見たりだとか、そういったことが含まれております。これらは、教職員というよりは、外部の学生であったり日本語指導の力をお持ちの方であったり、そういった外部人材を活用しているのが実情でございます、こういった表現になっております。

依田委員長 はい。そのような支援も、新校の学習指導として考えているということ

です。よろしいでしょうか。はい。伊東委員、お願いします。

伊東委員 これはただの質問なのですが、地域や企業と連携し、とありますが、今までは越生町と鳩山町にそれぞれ高校があって、それぞれ地域ということでやっていたかと思います。これが統合になって1校になった場合、どの辺までを地域と呼んでいくのかということです。鳩山町にあった高校はなくなるわけですので、今まで地域と連携していたということがなくなってしまふということになります。言い方は乱暴かもしれませんが。そして新しい学校になるということで、この地域との連携といったときには、今までのことを考えていくのであれば、鳩山町も地域に含まれる印象を持つのですが。

依田委員長 はい。事務局からお願いします。

事務局 とても大切な視点だと私たちも考えております。今の鳩山高校は、本当に地域とつながった素晴らしい取組を行っています。鳩山高校はコミュニティスクールにもなっている学校ですので、その鳩山高校にとっての地域というところも、統合した新しい学校も、そういった皆さんとも引き続きつながると良いと考えております。ただ、地理的に越生高校と鳩山高校は少し距離がありますので、その辺り、実際どのようなつながりができるかというところは、今後の工夫や検討ということになるかと思いますが、考え方としては、御指摘のとおりだと思っております。高等学校の場合は、地域というのが、学区のようにカチッと決まっていないので、どのような形でステークホルダーの皆さんと関わるかということは、場合によっては距離が離れていても関係者になってくる可能性もありますので、その辺は、これまでの鳩山高校がつながっていた地域であったり企業であったり、そういったところも含めてうまく引き継いでいけると良いと考えているところです。

依田委員長 伊東委員、よろしいでしょうか。

伊東委員 はい。

依田委員長 他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、先に進みたいと思います。生徒指導について、事務局から説明をお願いします。

事務局 (越生・鳩山新校基本計画骨子(案)のうち生徒指導について説明)

依田委員長 生徒指導につきましては、前回も何点か御意見をいただきました。それを受けてのこういった案となっております。引き続き、皆様から御意見を賜りたいと思いますが、いかがでしょうか。伊東委員、お願いします。

伊東委員 先ほどの教科指導の方に、情報モラルや情報リテラシーの向上を図るという文言がありましたが、生徒指導に関しても、何かしらそういった項目が入っていた方が良いのかなと思います。もちろん授業の中で扱う内容ではあると思いますが、やはりプライベートの部分でも情報に触れる機会ですとか発信する機会ですとかあると思います。この辺りは大学でもそうなのですが、学校外でいろいろ巻き込まれるケースがありますので、そういった指導というのも盛り込んだ方が良い気がしています。

依田委員長 こちらについて、事務局からありますか。

事務局 教科指導、生徒指導の両方に記載した方が良いという今の御意見ですが、実

はこの部分については事務局でも、前回の委員会で伊東委員から御指摘をいただいて、情報リテラシーといった観点は、美術科や、美術科に限りませんが著作権のことであつたりとか、いろいろ大事なことであるという御意見をいただいて、情報という教科もありますし、美術科の学びの中でも触れていく内容かということで、まずは教科指導の中に入れ込みましたが、もちろん生徒指導の観点からも、SNSが由来のトラブルも、特に高校生は多いので、そういったところは私たちも注意していくべきところだと考えています。いただいた御意見をまずは教科指導の方に入れ込んでしまったので、生徒指導の方にもということでありますので、検討させていただいて、最終案の中にはうまく盛り込めれば良いと思っているところです。

依田委員長 よろしいでしょうか。他、皆様からいかがでしょうか。まだ御発言をいただいている委員から、生徒指導に限らずこれまでのところで何かございましたら、この辺で御意見をいただいてと思っているのですが、何かございますでしょうか。佐々木委員から何かありますか。

佐々木委員 大丈夫です。

依田委員長 よろしいでしょうか。白石委員、いかがでしょうか。

白石委員 大丈夫です。

依田委員長 はい。谷ヶ崎委員におかれては、この後また御意見をいただきたいと思っているのですが、ここまでで何かございますか。

谷ヶ崎委員 はい。大丈夫です。

依田委員長 分かりました。では、情報リテラシーの要素を生徒指導にどう組み込むかということについては、事務局で検討いただきたいと思います。

事務局 1点、補足をよろしいでしょうか。

依田委員長 はい。お願いします。

事務局 補足と言いますかお願いと言いますか、第2回目の新校基本計画検討委員会、これは学校の教職員、それから教育局の関係者が入っている委員会ですが、そちらで、次のような意見が出されております。内容というよりも並びのことで意見が出ました。基本方針の並びについて、昨年、文科省がベースになって定めている生徒指導提要という、生徒指導のガイドラインみたいなものですが、これが改訂されました。その趣旨と言いますか並びの順番を踏まえて考えると、ウ、ア、イの順番にした方がしっくりくるという意見がありました。県教育局の生徒指導課の職員から、生徒指導提要などの内容を頭に入れた上で、並びとしてはウ、ア、イの順番の方が良いのではないかという意見が出ております。本日の資料は、基本計画検討委員会と同じ、もともとの並びで載せていますので、事務局としては、並びについては余り厳密にこの順番でと決めてきたつもりはないのですが、生徒指導提要という国のガイドラインに合わせた形で、今申し上げた、ウ、ア、イの順番に修正する方向で考えております。この点について御意見があるようでしたら、お願いしたいと思います。

依田委員長 これまでの各委員の理解はいかがだったのでしょうか。並びについて、優先順位のようなものはあるのかないのか、その点はどうでしょうか。

事務局 特にはないと考えております。

依田委員長 はい。分かりました。特にア、イ、ウとかそれについて、重要度に違いはない、優先順位に違いはないということでした。そのように御理解いただければと思います。それではよろしいでしょうか。次に進みます。進路指導について、事務局から説明をお願いします。

事務局 (越生・鳩山新校基本計画骨子(案)のうち進路指導について説明)

依田委員長 資料を御覧いただいて、御意見、御質問がありましたら、お願いします。

はい。長島委員、お願いします。

長島委員 令和8年度に新校は開校になるかと思えます。そうするとその間に、令和6年度、7年度に今の越生高校に入学した生徒もいるわけです。そういった中で、新校としては令和8年度が第1期の募集となり、新1年生が入学してくるわけですが、その中で、在校生との違和感と言いますか、在校生が違和感を持つかわかりませんが、進路指導の項目に、3年間を見通した系統的な進路指導計画に基づきとありますが、在校生に対してもそういった体制を取って進路指導をやっていたらいいのでしょうか。確認させていただければと思います。

依田委員長 事務局からでよろしいでしょうか。お願いします。

事務局 校長先生を前に事務局が言うのもなんですが、基本的には、そこにいる教員と言いますかスタッフは同じですし、在校生と新校の生徒を区別して何か教育をするということにはならないと思っています。これは新校のための基本計画として盛り込んでおりますが、現在の越生高校においても、このような方針、方向性を持って進路指導が行われていると考えております。新しく学校が開いたときに、確かに、もしかしたら制服が違っているとか、あるいは学科名が違っているとか、そういった違いは出てきますが、一つの学校の中に、同じ教職員が同じ指導を行いながら、一つの学校として動いていくということになるかと考えております。

長島委員 特に普通科の場合は、教職員の異動等はないとは思いますが、美術・デザイン科の場合は、今後アニメーションの学びが始まるということで、そういった関係の先生が何人かおいでになると思います。現に今、美術科を専攻している生徒たちが、そういった違和感を覚えなければ良いかと心配しているのですが、いかがでしょうか。

事務局 確かに教職員の異動はあるかもしれませんが、教員との出会いによって生徒の考え方が影響されるということもあるかもしれませんが、基本的に学校での学びは教育課程の中にきちっと示されていくものですし、国が定めた学習指導要領の範囲内で授業が行われていきますから、特別にアニメーションを教える教員が人事異動で移ってきたとしても、そのことによって在校生に違和が出るようなことはないと思っています。

依田委員長 長島委員、よろしいでしょうか。新校の取組について、良いものについては、取り組むことができるものから取り組んでいただければよろしいかと思えますので、是非、長島委員の御意見を基本計画検討委員会にも伝えていただければと思います。進路指導の部分でございますが、その他いかがでしょうか。はい。

伊東委員、お願いします。

伊東委員 1点だけ質問です。越生高校、それから鳩山高校の進路先を見てみますと、越生高校の方は大学、専門学校への進学の方が少し多いように思います。逆に、鳩山高校は、就職の方が少し多かったように見受けられます。新校になったときに、両方の学校の生徒が来ると仮定したときに、進路の割合、就職と進学の割合について、今の段階ではどのようなイメージを持っているのかお聞きしたいと思います。

依田委員長 事務局からお願いします。

事務局 学科の置き方によって、例えばこれまでは大学科で言うと商業科である情報管理科というのが鳩山高校にはありましたので、先ほども御発言があったように、即戦力、実践力を買われてそのまま企業に就職する生徒が割と多いので、そういったところが全体の統計的にも、鳩山高校の就職の割合に表れていたのだと思います。越生高校の方は、現在の割合と、この後新校になったときにも、新校は普通科と美術系の学科ですので、同じような傾向が続くのかと考えております。ただ、普通科の生徒は、本当に進学から就職まで様々な進路先がありますので、同じような傾向かなというくらいで、実際の割合をターゲットにするのもなかなか難しいですし、この基本方針であったり具現化の方にもありますように、生徒一人一人が望む進路、あるいは行くべき進路をうまい具合に教職員が支援をして、それぞれの夢だったり希望だったり、そういったものが叶えられるような進路指導ができると良いと考えているところです。

依田委員長 では、鳩山高校と越生高校の両方が混ざった形で、今と大きく変化することはないと捉えているということでしょうか。

事務局 そうです。

依田委員長 伊東委員、いかがでしょうか。

伊東委員 校長先生にお伺いした方が良いのかもしれませんが、現在の美術科の生徒たちは、進路先として、現状どういうところに行っているのかお伺いできればと思います。

吉澤副委員長 美術科については、だいたい2割5分くらいの生徒が四年制大学に進学しています。専門学校がだいたい5割、残りの2割程度が就職といった状況です。ですので、大学と専門学校を合わせますと、7割5分程度が進学しているわけですが、そのうちの約6割は、美術系の大学や専門学校に進学しているといった状況です。

伊東委員 就職の場合にはどういう就職先があるのでしょうか。

吉澤副委員長 就職先については、普通科の生徒と同じように、地域、地元の企業などへの就職ということで、特に美術系の就職といったものは多くありません。

依田委員長 はい。他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、引き続き、資料1の5ページを御覧ください。生徒募集とその他について、事務局から説明をお願いします。

事務局 (越生・鳩山新校基本計画骨子(案)のうち生徒募集、その他について説明)

依田委員長 それでは、生徒募集とその他について、御意見、御質問をいただきたい
と思います。いかがでしょうか。はい。長島委員、お願いします。

長島委員 基本方針のAに、小・中学生や保護者が関心をもてるよう、様々な機会を
捉えて云々とありますが、具体的にどういったことを考えていらっしゃるのでしょ
うか。

依田委員長 事務局、お願いします。

事務局 まずは誰をターゲットにするかというところで、中学生をターゲットにする
というのは、これまで普通の高校ではごく当たり前に行われてきたことです。中学
生が、高校選びというところで最も考える時代ですので。それに留まらず、小学生
のうちからということで、特に専門の美術系の学科を置くことになりますので、高
校生になったらこんな絵が描けるようになるとかこんな作品を作れるようになる
とかこんな映像表現ができるようになるとか、そういったことをしっかりアピール
するなどして、専門美術科の売りをしっかりとPRするということかと思えます。
また、この辺りには、新校にとってライバルとなるような学校もたくさんあります。
私立の高校もあります。ですので、そういったところとの違い、売り、強みなど良
いところを、中学生はもちろんのこと、小学生にもしっかり伝えていくということ
になります。今は具体的話がないかもしれませんが、例えば、よく学校を説明す
るときは、校長が全体の話をして教務主任が入学したらこんなふうになりますよと
いう話をしたりするものなんですが、そこに普通科の生徒が来て発表するとか、美
術系の学科の生徒が来て作品や自分の映像をそこで紹介するとか、そういった具体
の教育成果みたいなものを、しっかり地元でPRして、越生・鳩山新校の魅力をし
っかりと打ち出していきたいと考えております。

長島委員 そうすると、本日は地元の中学校の校長先生もいらっしゃいますが、例え
ば地元の中学校との交流を図って、積極的にPRする機会をつくる、あるいは私立
高校ではよく部活動の活躍や進学実績などを懸垂幕でPRしていますけれども、公
立ではそういった広告宣伝、PRはできないのでしょうか。

事務局 越生高校でも鳩山高校でもそうですが、正面のゲートの近くに、いろいろパ
ネルを出したりしていますけれども、そうしたいろいろな形で、地域の方から注目
されるような取組は、これまでも行ってきていただいておりますので、更に一層や
っていただいて、懸垂幕もやろうと思えばできるのかと思えますが、現在は、越生
高校も鳩山高校も、パネルが中心となっているかと思えます。懸垂幕はありますか。

堀副委員長 鳩山高校の場合、懸垂幕だと見えないので、学校によってどこでアピ
ールするか異なるかと思えます。道から見えやすいところが良いと思えますが、鳩山
高校の場合は、越生高校と同じように正門付近に出しています。

事務局 鳩山高校も越生高校も少し高台にありますので。

長島委員 別に弊害があるわけではないんですね。

事務局 もちろんそうです。いろいろな形でやらせていただければと思います。

依田委員長 他、いかがでしょうか。高橋委員、お願いします。

高橋委員 生徒募集については令和7年度からということになると思えますが、その

際に、まだ先のことなので決定はしていませんが、どういう形でやっていくのかと言いますか、生徒募集に当たってはこういう学校ですよと実際に来ていただいて体験していただいとすることができると思いますが、新校の場合、どういう形で新校の状態を、見に来てくれた方にお話するとか体験していただいたりとか、何かそういった計画はあるのでしょうか。まだこの先ということでしょうか。

依田委員長 事務局からお願いします。

事務局 やはり本当の具体のところはこれからになると思うのですが、例えば、この春に開校した児玉新校、飯能新校などでは、当然、他の学校も作っていますが、案内パンフレットを作っています。どちらの学校のものも割と立派なものできていまして、お金をそれなりに投入して良いものを作っています。また、ポスターを作ってそのポスターを駅に掲示したり、いろいろな形で新しい学校だということをPRしてきています。最近ではホームページもそうですし、悪い活用の仕方が出やすいのですが、SNSも、CMと言いますかPRをする力はすごく大きいので、第1期の二つの学校では、そういったところでそれなりの宣伝をしっかりと打ち出していました。YouTube、Instagram、公式LINEなどいろいろなところで発信していましたので、是非、越生・鳩山新校でも同じようなPRができれば良いと考えております。

高橋委員 ありがとうございます。

依田委員長 はい。では、伊東委員、お願いします。

伊東委員 募集をされる際なんですけど、ホームページ等で発信されたり情報を出していくことになるかと思いますが、大変申し訳ないですが、県立高校のホームページはとてもデザイン的とは言えないものだと思っております。例えば、越生高校のホームページと近くにある武蔵越生高校、こちらは私立ですけども、全然ホームページの内容が違ったりします。制約はいろいろあるとは思いますが、私の大学もそうなんですけど、ここでいかに情報を発信するかによって、来てくれるかどうかが決まってくる。専門学校でもそうですし、特に、先ほど進路の話が出ましたが、大学や専門学校を選ぶといったときにも、見るのはホームページが一番最初になってきます。そこで見て、興味があったら学校に行ってみてということにつながるケースが多いので、せっかく美術やデザインということで進めていくのであれば、それに見合ったホームページの工夫をしていかないと、新しいということにつながっていかないと。先ほどスマホでホームページを見ましたが、なかなか扱いづらいものでした。子供たちも普通にスマートフォンを持っていますし、そこで見るかと思えます。就職活動も今はスマホですから、企業も、スマートフォンで見やすいホームページを作っているということもありますので、その辺りもやっていかないと、効果的な宣伝につながっていかないと。新しくやっていくのであれば、デザイン的な部分も含めて、取り入れていただければ良いと思えます。

依田委員長 今の御意見については、よく御留意いただければと思います。他、いかがでしょうか。谷ヶ崎委員から、中学校側からこの生徒募集について御意見、アドバイス等があれば教えていただければ有り難いのですが、いかがでしょうか。

谷ヶ崎委員 中学生の立場から、どういうふうはこの新校が見えるのかなということをお話しながらお話を伺っておりました。先ほどの事務局からのお話の中で、近隣の他の学校との差別化と言いますか、強みだったり違いだったり、売りみたいなものもしっかりアピールしていきたいというお話がありました。私も本当にそのとおりで思っております。どういう特色を新校として打ち出していけるのか、それをいかに中学生や保護者に向けて発信できるかということが重要だと思っております。今までの越生高校と鳩山高校の取組を踏襲していくというのも一つの大事な考え方なんですけれども、新しい学校を立ち上げていくということですので、思い切った特色を出していくということは外せないかなと思います。それから、最近の子供たちを見ていて感じるのは、自信がなかったり、頑張ってもやればなんとかできるという自己効力感がすごく低い子供たちが多いということです。教科指導、生徒指導、進路指導、そういったところをいかに個別に育てていけるかということが重要かと思っております。中学校の不登校や高校の中途退学も増えていると思いますので、3年間しっかり夢を持って、充実した高校生活を送れるように、そういったところも、新校を立ち上げる上では重要な視点かと思いました。

依田委員長 大変貴重なアドバイスをいただき、ありがとうございました。はい。では、岩澤委員、お願いします。

岩澤委員 前回も少しお話しさせていただきましたが、やはり普通科の特色というのが、新校の運営がうまくいくかという中で一番大きいのではないかと思います。美術科の方は、これから様々御検討されるということですが、併せて普通科の方も、普通科の範囲内で、できるだけ特色を持たせていただきたいと思っております。先ほど、武藤委員からもありましたが、情報処理であったり、校門のところには横断幕でITパスポートを取った生徒がいるということで大きく宣伝されていまして。我々行政の立場としても非常に感じているのは、IT人材というのがなかなか確保できない状況です。様々な業者が来庁しますが、どこの業者も、こういったDX関係、IT関係の人材が不足しているということです。せっかく鳩山高校と統合するという中であれば、普通科の中でも特色ある普通科にできるだけ寄せてもらうことによって、この地域の中で、特に越生町に生徒を呼ぶのであれば、偏差値以外のところで、様々な魅力のある普通科にさせていただくことが、普通科3クラスの募集につながってくるのかなと思います。是非その辺も、力を入れて御検討いただきたいと思っております。

依田委員長 事務局からありますか。

事務局 私たちも全く同じことを考えております。エールをいただきました。ありがとうございます。

依田委員長 皆様から、他によろしいでしょうか。はい。高橋委員、お願いします。

高橋委員 生徒募集に関して、ホームページ等、WEBを使ってそちらを充実させていくということだと思っておりますが、そうではない少数派の方、今の世の中、詳細はWEBでということになっておりますが、そういう環境がない御家庭も中にはあると思います。うちも今年高校1年生になりましたが、それまではスマホを持たせていなかったもので、ホームページだけということではなくて、WEBで見られない方に

対しても学校の紹介であるとかそういうところにも力を入れていただければと思います。

依田委員長 今回の御意見についても、基本計画検討委員会に伝えていただければと思います。それでは、時間が超過してしまいました。協議の方は以上で終了したいと思います。本日の協議の内容につきましては、前回もお話させていただきましたが、鳩山町の方にもしっかりと情報提供させていただきたいと思っております。また、鳩山町の方にも、引き続きこちらの委員会の方への御参加について御依頼してまいりたいと思っておりますので、その点につきましても、委員の皆様には御理解を賜りたいと思います。